

学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2020年度）集計結果 国語国文学科

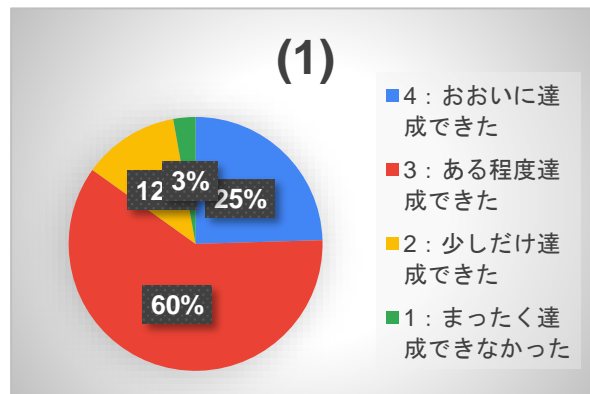
回収結果

学部	文学部				人間総合学部				合計
	国語国文	フ語フ文	英語英文	学部計	児童文化	発達心理	初等教育	学部計	
回答数	106	101	83	290	53	53	74	180	470
卒業生数	119	106	107	332	58	59	75	192	524
回答割合	89.1%	95.3%	77.6%	87.3%	91.4%	89.8%	98.7%	93.8%	89.7%

卒業生数には2020年9月卒業生、2021年3月卒業生を含む

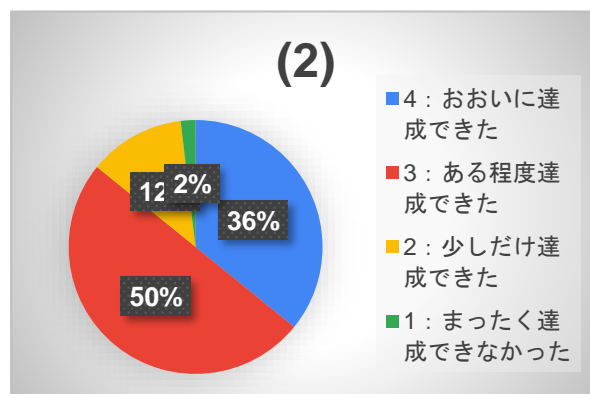
（1）時代を超えて普遍的に求められる豊かな人格形成をおこなうために、カトリックの人間観・世界観を理解するための基礎的な能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	26
3：ある程度達成できた	64
2：少しだけ達成できた	13
1：まったく達成できなかった	3
106	



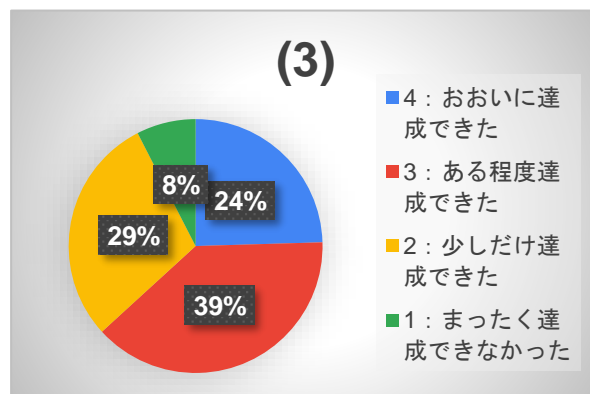
（2）時代を超えて普遍的に求められる深い教養と知性、自己を発見する心を持つ自立した女性になるための基礎的な能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	38
3：ある程度達成できた	53
2：少しだけ達成できた	13
1：まったく達成できなかった	2
106	



（3）現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必要な能力を身につけている。

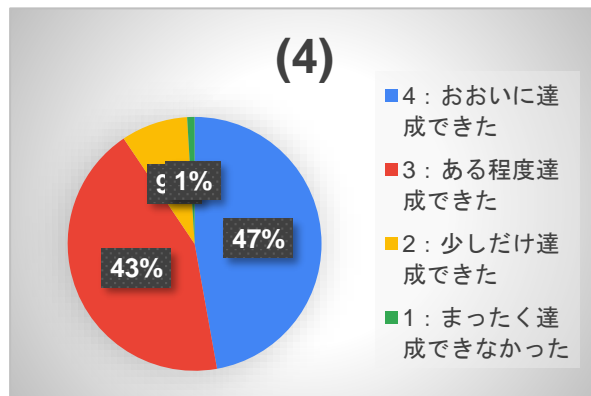
4：おおいに達成できた	26
3：ある程度達成できた	41
2：少しだけ達成できた	31
1：まったく達成できなかった	8
106	



学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2020年度）集計結果 国語国文学科

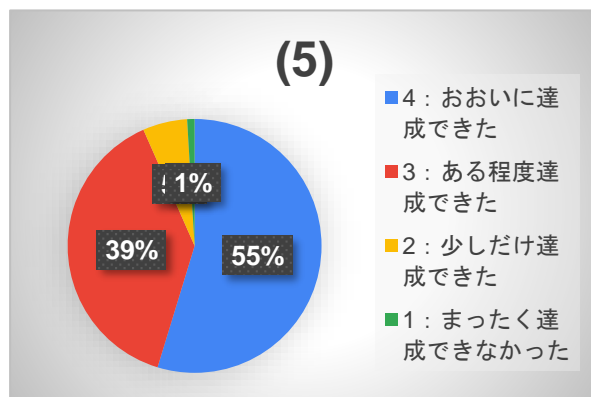
(4) 専攻する言語と文学、文化に関して、専門的な知見と技能を身につけている。

4：おおいに達成できた	50
3：ある程度達成できた	46
2：少しだけ達成できた	9
1：まったく達成できなかった	1
106	



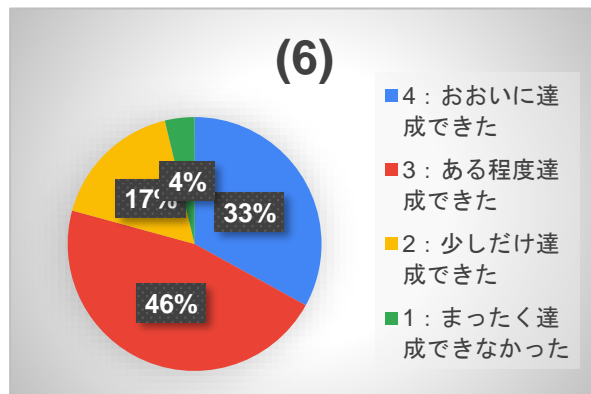
(5) 専攻する言語や文学、文化について、特定の問題を掘り下げ、自ら調査、研究して考えをまとめることができる。

4：おおいに達成できた	58
3：ある程度達成できた	41
2：少しだけ達成できた	6
1：まったく達成できなかった	1
106	



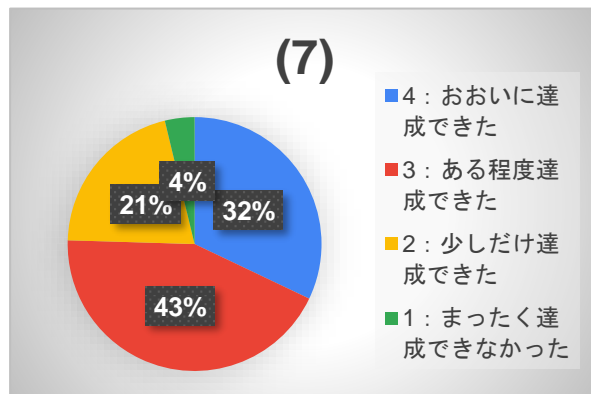
(6) 専攻する言語について、高度なコミュニケーション能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	35
3：ある程度達成できた	49
2：少しだけ達成できた	18
1：まったく達成できなかった	4
106	



(7) 異文化と自文化とを見渡す豊かな教養をもとに、多様な人々と協働し、対話する能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	34
3：ある程度達成できた	46
2：少しだけ達成できた	22
1：まったく達成できなかった	4
106	

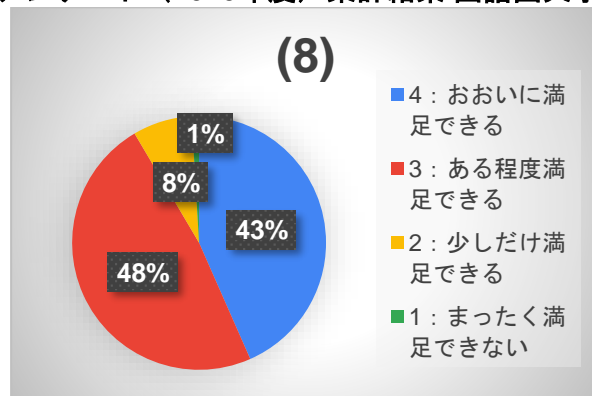


(8) 大学4年間の学修を通じて、あなたは満足のいく成果をあげたと感じますか。

学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2020年度）集計結果 国語国文学科

4：おおいに満足できる	46
3：ある程度満足できる	51
2：少しだけ満足できる	8
1：まったく満足できない	1

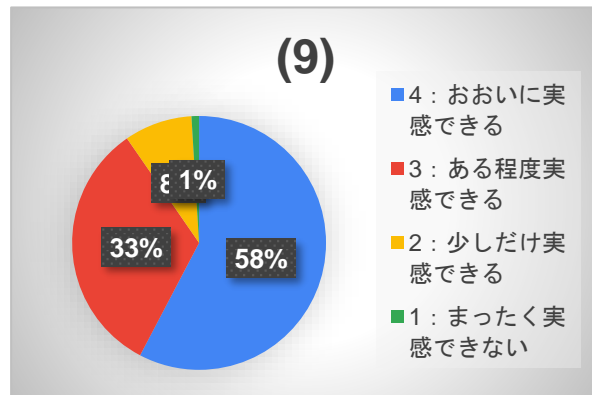
106



(9) 大学4年間の学修を通じて、あなたは自分が成長したと実感しますか。

4：おおいに実感できる	60
3：ある程度実感できる	34
2：少しだけ実感できる	9
1：まったく実感できない	1

104



2020年度卒業時アンケートに関する考察（国語国文学科）

国語国文学科での4年間の学びを終え、ディプロマポリシーから設定された質問に沿って、自己の成長を達成感や満足度から振り返るアンケート結果に対する考察を述べる。回答の選択肢「大いに達成できた」、「ある程度達成できた」の合計の数値を一つの基準として見てみると、どの項目もおおよそ80%以上となっており、ほとんどの学生が達成感を得て卒業したことが分かる。特に数値が高かった項目は、「(4)専攻する言語と文学、文化に関して、専門的な知見と技能を身につけている」(90,6%)、「(5)専攻する言語と文学、文化について、特定の問題を掘り下げ、自ら調査、研究して考えをまとめることができる」(93,4%)の2項目であった。この要因として考えられるのは、国語国文学科という学科の特徴である、日本語を使って高校までの学びに積み上げるようにより上を目指して深く学んでいけることが挙げられる。また、国語国文学科では4年間の学びの集大成として、卒業論文が必修科目に設定されていることも大きいだろう。卒業論文の作成を通して、達成感や自己の成長を感じることは多いと思われる。

一方、比較的数値が低かった項目は、「(3)現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必要な能力を身につけている」(63,2%)であった。この点に関しては、設問に「外国語学習を通じ」という表現があるため、国語国文学科の学生にとっては「外国語学習」はしているが、文学部の他学科のように外国語を通じて学習する機会は少ないと感じ、達成感は少ないと回答したと考えられる。設問(7)の「異文化と自文化とを見わたす豊かな教養をもとに、多様な人々と協働し、対話する能力を身に付けている」と「対話する能力」という表現を含んだ問いに対し、「大いに達成できた」、「ある程度達成できた」という回答が75,5%であることから、国語国文学科の学生が異文化に対する理解が格別に低いとは考えられない。確かに、外国語の修得という点では、文学部の他の学科より劣ってはいるが、自国の文化を深く学ぶことで、異文化への理解がより深まるということも考えられるのではないだろうか。

## 学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2020年度）集計結果 国語国文学科

以上のように、アンケート全体を通して評価はおおむね高く、最後の質問項目である「（８）大学４年間の学修を通じて、あなたは満足いく成果をあげたと思いますか」、「（９）大学４年間の学修を通じて、あなたは自分が成長したと実感しますか」に対して、ほぼ全ての学生が学修、学生生活に満足し、自身の成長を実感していると回答していることは、白百合女子大学の国語国文学科で学んだことが学生の将来に活かせる内容であったと学生からは評価されていると理解してよいだろう。